

弘前大学
広報誌

ひろだい

vol.
21
2013.9



特集

MOS学生大会で、 世界にチャレンジ!

弘前大学人文学部経済経営課程2年
辰巳 真広

[シリーズ]花開く研究
弘前大学藤崎農場から世界に
果肉まで赤いりんご「紅の夢」

青森県の包括的ながん対策の拠点

医学研究科に
「地域がん疫学講座」を開設

[学内トピックス]話題の広場から
「イノベーションネットアワード2013文部科学
大臣賞」を受賞
福島県浪江町仮役場に「復興支援室」を設置 他



特集

MOS学生大会で、世界にチャレンジ!

毎年、各国の代表がスキルを競い合う「マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト(MOS)世界学生大会 決勝戦」。エクセル部門でただ1人の日本代表として参加権を得た若者が、この夏、米国ワシントンへ向け飛び立ちました。帰国後、興奮覚めやらぬ辰巳さんへのインタビューです。

金賞獲得で開かれた世界大会への道

皆さんは、マイクロソフト社認定のパソコン技術を競う「マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト(MOS)世界学生大会」をご存知でしょうか。

「MOS」とは、エクセル・ワード・パワーポイントなど、マイクロソフトオフィス製品の利用スキルを証明する、約200の国と地域で実施されているグローバルな認定資格です。取得すれば世界共通の「合格認定証」によって、認定されたスキルが世界で通用するというもの。世界学生大会は、優秀な有資格者で実力を競い合う世界規模の大会。世界大会への出場者を選考する日本大会はオデッセイコミュニケーションズが

主催し、国際的に活躍できる人材育成を目的に2003年から毎年行われています。

今年の「MOS世界学生大会」は7月31日から8月3日まで米国ワシントンD.C.で開催され、エクセル(表計算ソフト)2010部門の日本代表として見事世界第8位に輝いたのが、弘前大学2年の辰巳真広さん。青森県からは初めての日本代表とあって、新聞などを賑わせたのでご存知の方もいらっしゃるかと思います。弘前市ではねぶた祭りの熱気が最高潮に達していたこの時期、辰巳さんも文字通り熱い夏を駆け抜けていました。

実は辰巳さん、世界大会の存在を知ったのは3月に受けた「MOS試験」でのことでした。毎年320万人が受験しているという「MOS試験」のエクセル2010部門で

1000点満点を取り、その場で試験官から紹介され日本大会にエントリー。4万5千人の学生が参加した日本大会で第1位に当たる金賞を獲得、上位入賞者を対象にした小論文と電話での面接を経て、エクセル2010部門ではただ1人が選出される日本代表として、世界大会への出場権を獲得したというわけです。

パズルを解くようなエクセルの魅力

辰巳さんがパソコンに初めて触れたのは小学1年生の頃。お兄さんが通っていたこともあってご両親から勧められ、小学校6年から中学校1年までパソコン塾に通いました。三沢商業高等学校時代には強豪

「MOS世界学生大会」の賞状。大会を勝ち抜いてきた世界中の精鋭たちが、頂点を目指してスキルを競い合う。



パソコンに向かう姿は真剣そのもの。何度も繰り返し練習を重ねる、その先にまだ見ぬ世界が待っている。

として知られるITA(情報技術取得)部に所属、「全国高等学校情報処理競技大会」で団体準優勝・個人3位に輝くなどエクセルのスキルを上げていきます。高校2年で経済産業省が認定する国家資格「応用情報技術者試験」を取得した時は、「パソコンで凄いことができるんだ」と感じたといいますから大物です。



弘前大学人文学部 経済経営課程2年

辰巳 真広(たつみ まひろ)

青森県三沢市出身。青森県立三沢商業高等学校卒業。小さな頃からパソコンに親しみ、高校時代には情報処理の分野で強豪として知られるITA部に所属。高校2年で経済産業省の国家資格「応用情報技術者試験」を取得。全国商業高等学校協会が実施する情報処理検定1級・簿記実務検定1級・会計実務検定など全9種目を制覇。大学では会計学に興味があるという19歳。

これまでのスキルを証明したくて「MOS試験」を受けたという辰巳さん、「エクセルには自信がりましたが、まさか満点を取れるとは…」とうれしそう。受検料を無駄にたくないという気持ちで、とにかく失点を減らすために模擬問題を繰り返し解いて万全の状態で臨みました。そんな辰巳さんにエクセルの魅力を尋ねると「論理的なところ。やり遂げた時には達成感があります。エクセルはセルに数式を入力してグラフを作成したりしますが、数式同士が関連し合っつながっていくのが、まるでパズルのようで面白い」と目を輝かせながら話してくれました。

さて、「MOS試験」にパスすれば何回でも出場できる日本大会とは違って、同じ部門のチャレンジは人生で一度だけという世界大会に向けて、辰巳さんは自己流だった操作を正確に覚えることを徹底。ボタンの配置と機能をしっかり頭に入れ、迷わず自然と手が動くように練習を重ねました。「世界大会ではプレッシャーや緊張はなかったのですが、自分の思い込みでタイムロスした影響が結果に表れました。やりきった感があります!」と清々しい表情です。

辰巳さんのチャレンジは終わらない

今回の世界大会への参加は、辰巳さんにとって新鮮な驚きの連続でした。かなり緊張したという佐藤学長への世界大会出

場報告では、「外国の文化をしっかりと感じてきてほしい」と託されての渡米です。そして今回、初めての海外旅行ともなった世界大会では、異文化体験や他国の参加者との交流など、得るものが大きかったと振り返ります。とりわけ印象的だったのがスミソニアン航空宇宙博物館内の立食パーティ。「大人はお酒を片手に館内を巡るなど、日本では考えられないこと。また、滞在中に訪れた国立美術館でもモネやダヴィンチの絵を間近で見ることができ、感動しました」という辰巳さん、「自分を含め日本人は英語がうまく話せない。コミュニケーションを取るためにも英語は大事」と痛感しての帰国となりました。

やり遂げたとはいえ結果には少々悔いが残ったという辰巳さん。というのも、壇上で表彰されるのは金・銀・銅までで、辰巳さんが結果を知ったのは帰国してからという勝負の厳しさです。同じ部門へのエントリーができないため、「パワーポイントで来年の世界大会に挑戦したい!」という思いが膨らんでいます。今年から始まった「アドビ認定アソシエイト(ACA)」のフォトショップ部門にも興味が向いています。

大学では会計学を学びたいという辰巳さん、将来像は国税専門官。そのための資格や勉強にも本腰を入れる時期が近づいています。「今回の経験を糧に、慢心せずに自分のスキルを高めていきたい」、辰巳さんの挑戦は終わりません。



果肉がきれいなピンク色に染まる、魅力的なりんご「紅の夢」。

弘前大学藤崎農場から 世界に向かって羽ばたく 果肉まで赤いりんご「紅の夢」

20年前、弘前大学藤崎農場で誕生した1本の苗木が、長い時間を経て、果皮も果肉も赤く、しかも渋みもなく生食できる期待の新品種「紅の夢」として、今や多方面から熱い注目を浴びています。この魅力的なりんごが、実にさまざまな分野の人々を結びつけ、品種登録からわずか3年で苗の販売を実現、今また新たな可能性に向かって前進しようとしています。

「紅の夢」は 偶然から生まれたりんご

弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター藤崎農場は、りんご王国・青森を代表する品種「ふじ」が育成された旧農林省園芸試験場東北支場の跡地において、1963年に弘前大学農学部附属藤崎農場となってからこれまで、次世代を担うりんごの品種育成に取り組んできました。特に1981年からスタートしたりんごの「育種プロジェクト」によって、1999年には弘大1号とふじを掛け合わせた「こうこう」、2010年にはゴールデンデリシャスと弘大1号から「弘大みさき」、同時に「果肉まで赤いりんご」の第1号として「紅の夢」の3種類が品種登録され、今現在も赤い果肉系2種を含む3品種の登録申請が行われています。特に「紅の夢」は果肉が赤い品種にありがちだった、渋くて生食できないという

問題を克服し、生でおいしく食べられることから、ジュースやジャム・カッパリんごや洋菓子に加工しても美しい赤色が残せ、何より切った瞬間に得られる視覚的なサプライズから大きな注目を浴びています。

実は「紅の夢」は偶然から生まれたりんごでした。もともとは紅玉にスターキングデリシャスを交配してできたりんごと言われていましたが、DNAによる親品種の推定やその後の追跡調査によって、父親が「エターズゴールドとラベルの付いた木」であることが判明。本物のエターズゴールドは何らかの理由で枯れて、台木に使われていた赤肉の遺伝的性質を持ったりんごがエターズゴールドとして育成されたと推測されています。これまでも赤い果肉のりんごはありましたが、生食するものではありませんでした。生食が可能で普及段階にあるものは「紅の夢」だけという期待の新星です。



たわわに実った紅の夢。秋空の下で輝いている。

絶妙なチームワークで 問題を解決に導く

こうした「紅の夢」を始めとした「育種プロジェクト」を牽引しているのが、藤崎農場で研究に携わる松本助教と、研究を日々支える技術職員や技能補佐員の皆さん。特に「紅の夢」は国立大学法人としてのりんご品種登録では全国初、先進的な試みとなりました。「交配を行って新品種を登録するには多くの時間と努力が必要で1人の人の力ではなかなかできません。育生者である塩崎先生の、「弘前大学には地域のりんご産業を支える使命がある」との思いが我々をはじめ多くの人々の心を動かし登録までこぎつけることができたのでは？」と語る松本助教は、「私が着任した時の“紅の夢”は、斑点だらけでありあまり顧みられないりんごでした。けれど、こんなに面白いりんごなのにと、諦めきれない思いがありましたね」と続け



技術職員の佐藤早希さんは、紅の夢のイメージガールとしても活躍中!?



みんなの力がひとつになって紅の夢が実った。

ます。

今年の秋、「紅の夢」の苗木が地元の種苗店を通して初めて販売されます。それもこれも、表面に現れる斑点の問題を早期に何とか克服できる見通しがついたことが大きいと言えます。斑点の防止法は修士課程の学生だった向後智陽君が日々の観察から発見したもので、予備実験から3年で実用化に目途がつかしました。

「こうした地道な研究には、現場を支える技術職員の存在と、問題に対して取り組むチームワークの力が大きい」と松本助教は強調します。そんな一人、りんご栽培の責任者として働く藤田技術職員は弘前大学出身。大学時代は塩崎先生の下で学び、現在も「紅の夢」を世に送り出す一翼を担っています。今年、農学生命科学部の技術職員として初めて大学のキャリアアップ制度を利用して修士課程に入学、松本助教のもとで学んでいるという藤田さんは「発表会や展示会の場で質問を受ける機会も増えています。消費者・研究者・りんごを良く知らない方の意見を聞き、生産者の立場でどうアピールしていったら良いのかなど試行錯誤中。現場で働く立場からサポートできれば」と熱い思いを語ります。松本助教も「藤崎農場では研究者目線と生産者目線の両方からのアプローチができていて、それが成果につながっています」と言葉をつなげます。



岩木山を望む広大な藤崎農場が紅の夢の故郷。



「紅の夢」と「弘大みさき」は、同時に品種登録された言わば兄弟りんご。

ネットワークがもたらす 新たな可能性

こうした「紅の夢」の大きな飛躍は、東京のビッグサイトで開催された2012年の「アグリビジネス創出フェア」への出品が大きかったと、松本助教は振り返ります。3日間の会期中に1800人が訪れる人気ブースとなり、約900人に行ったアンケートでは見た目の意外性や美しさに加えて、甘さ中心のりんご市場にあって「酸味があり美味しい」という意見が多く寄せられ、生産者や食品会社などから問い合わせが殺到するなど関心の高さをうかがわせました。以来、「紅の夢」を取り巻く状況は一変。松本助教を委員長に各分野のメンバーを迎えたネットワーク、「赤い果肉りんご“紅の夢”普及推進委員会」を立ち上げたことで本格的に動き始めます。「大学がやりたい研究をして、それを外に出していくというのが一般的でした。しかし普及しなければ意味がない。企業や行政を巻き込んで、地域の力を借りる体制が取れたことが大きい」。地元へ貢献しながら全国的な普及を目指すことで、国立大学法人としての使命も果たせます。

次のステップは「紅の夢」の新たな可能性として、機能性の解明やジュースからできる搾りかすの利活用、教員や学生を巻き込んだ商品開発など。「目標は“紅の夢”に続けと控えている2品種とともに、弘前大学生まれの赤い果肉りんごがリレー形式で一年中市場に出回ること」。認知がされることで注目され大学でも興味を示す人々が多くなった今、弘前大学の技術を結集して「紅の夢」を世界に送り出す日も、そんなに遠いことではありません。



日々の地道な作業が、明日の成果につながっていく。



弘前大学農学生命科学部附属
生物共生教育研究センター 藤崎農場 助教
松本 和浩 (まつもと かずひろ)

静岡県出身。2000年、鳥取大学農学部農林総合科学科卒業後、イスラエルのヘブライ大学農学部へ留学。2003年、鳥取大学大学院農学研究科修士課程生物生産科学専攻修了。2006年、鳥取大学大学院連合農学研究科博士後期課程生物生産科学専攻農業生産学連合講座修了後、農学博士取得。同年、大韓民国の忠南大学校農業生命科学大学院園芸学部 博士研究員。2008年より現職。2009年より、岩手大学大学院連合農学研究科 助教兼任。専門は園芸学。



弘前大学農学生命科学部附属
生物共生教育研究センター
藤崎農場 技術職員
藤田 知道 (ふじた ともみち)

青森県弘前市出身。2001年、弘前大学農学部卒業後、ガーデナー株式会社に入社。2006年、弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター藤崎農場に技術職員として採用。2013年、キャリアアップ制度により、弘前大学農学生命科学部修士課程入学、社会人学生として松本和浩助教に師事。

ストックホルム大学放射線防護研究センターとの部局間学術協力協定

大学院保健学研究科は、スウェーデン王国・ストックホルム大学放射線防護研究センターと学術協力協定を3月6日(水)に締結しました。

調印式は、医学部コミュニケーションセンターで行われ、ストックホルム大学放射線防護研究センター長を務めるアンジェイ・ヴォイチク教授が訪問し、対馬均保健学研究科長と協定書に署名しました。

ストックホルム大学は、スウェーデンの首都ストックホルムにある国立大学で、1878年に設立されました。自然科学、人文科学、法学、社会科学の学部を有し、放射線防護研究センターは、放射線生物学、放射線環

境学、放射線計量学などの分野に携わる科学者達を擁しています。

協定書は、人的交流の発展と教育・研究の交流を促進することを目的として、研究協力、施設の相互利用、教職員の交流、学生の交流など7つの項目が記載されており、双方にとって非常に有意義な連携となることが期待されます。

また、放射線線量評価の世界的権威であるヴォイチク教授による講演が行われ、普段は聞くことのできない放射線被ばく線量評価の現状と問題点について学びを得ることができました。



協定調印後、握手を交わすヴォイチク放射線防護研究センター長(右)と対馬保健学研究科長

平成24年度弘前大学学位記授与式

3月22日(金)、平成24年度「弘前大学学位記授与式」及び「弘前大学大学院学位記授与式」が来賓、関係者出席の下、厳かに挙行されました。

「弘前大学学位記授与式」は第1部、第2部の二部制で行われ、第1部(人文学部、教育学部)が11時から、第2部(医学部、理工学部、農学生命科学部)が13時30分から本学第一体育館にて執り行われました。

はじめに佐藤学長から各学部の代表学生に学位記が授与されたの続き、学長告辞、卒業生答辞が行われ、式典を終えました。

式典終了後は、記念写真に収まるグループや後輩達から胴上げの祝福を受けるグループなど、体育館前はしばらく祝福ムードでいっぱいとなりました。

また、大学院学位記授与式は同日9時から創立50周年記念会館みちのくホールにて、教育学部附属学校園の卒業式は、小学校が3月17日(日)、中学校が3月8日(金)、特別支援学校が3月9日(土)、幼稚園が3月19日(火)に各学校園においてそれぞれ執り行われました。



学位記を授与される卒業生

食料科学研究所看板除幕式

食料科学に関わる専門的かつ学際的な研究を推進するため設置された「弘前大学食料科学研究所」が青森市役所柳川庁舎1階に開設され、4月3日(水)、研究所の看板除幕式を行いました。

除幕式では、はじめに佐藤学長が挨拶を

行い、その後青森市の鹿内市長、青森商工会議所の林会頭、青森市の丸野市議会議員から祝辞をいただきました。

そして本学及び青森市の関係者により、看板除幕が盛大に行われました。除幕式終了後、記者会見にて食料科学研究所の研究体

制などについての概要説明を行いました。

今後、この研究所の専任教員を確保し、研究体制の基盤整備を進めていくこととしています。



看板除幕を行った佐藤学長(中央左)と鹿内青森市長(中央右)



看板除幕式後に行われた記者会見の様子

平成25年度弘前大学入学式

4月9日(火)、弘前大学第1体育館において平成25年度「弘前大学入学式」が各学部の新入生を迎え、厳かに挙行されました。

「弘前大学入学式」は、第1部、第2部の二部制で行われ、第1部(人文学部、教育学部)が11時から、第2部(医学部、理工学部、農学生命科学部)が13時30分から本学第一体育館にて執り行われました。

式典では御来賓、役員及び部局長の紹介、入学許可、佐藤学長の入学式告辞、最後に新入生代表による学生宣誓があり、晴れの式典

が終了しました。

また、弘前大学大学院入学式は、同日9時から弘前大学創立50周年記念会館みちのくホールにおいて挙行され、教育学部附属学校園の入学式・入園式は、小学校及び中学校が4月6日(土)、特別支援学校が4月8日(月)、幼稚園が4月10日(水)に各学校園においてそれぞれ執り行われました。



学生宣誓

スキンケア用途に適した新規タデ藍エキスを弘前大学とサンスター株式会社が共同開発

本学とサンスター株式会社がスキンケア用途に適した新規タデ藍エキスの共同開発を行い、その研究成果についての記者会見が4月22日(月)に行われました。

弘前大学とサンスター株式会社は、2007年8月に締結した「研究連携の推進に係る協

定」に基づき、2009年6月よりタデ藍の抗真菌活性に着目した共同研究に取り組み、このたび、新規タデ藍エキスを開発し、スキンケア用途での有用性を使用試験により確認したことを発表しました。

今後も弘前大学とサンスターは、タデ藍抽

出物を応用した研究成果の実用化推進に取り組むとともに、藍の抗真菌性に関する共同研究を一層推進していくとして、会見を終えました。



記者の質問に回答する加藤理事



記者会見後の記念撮影

大規模災害等発生時における東北地区国立大学法人間の連携・協力に関する協定

東北地区国立大学法人(弘前大学、岩手大学、東北大学、宮城教育大学、秋田大学、山形大学、福島大学)は、大規模災害等により、独自では十分な応急措置及び教育研究活動等の復旧・再開が困難な場合に、迅速かつ的確に被災大学に対する緊急支援等を実施するため、去る4月25日(木)に仙台市において「大規模災害等発生時における東北地区国立大学法人間の連携・協力に関する協定」を締結しました。

連携・協力の内容は、

- (1) 食料、飲料水、医薬品その他生活必需物資の提供
- (2) 教育研究活動等の復旧・再開のために必要な教職員等の相互派遣

- (3) 防災・減災のための取り組みに関する情報交換

- (4) その他第1条の目的達成のために必要と認める事項
となっています。



協定書にサインをする佐藤学長



7国立大学法人の各学長等

リンゴとチューリップのフェスティバル

5月11日(土)、12日(日)、本学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター藤崎農場において、リンゴとチューリップのフェスティバルを開催しました。このフェスティバルは毎年、地域に農場を開放することで、大学についてより知っていただくために行っているものです。

ピーターバン・チューリップ園では、前年の農場実習で本学学生が植え付けた16品種13,000本のチューリップ、そして57品種1,200本のリンゴ園を見学することができました。

天候不順により、例年よりチューリップの開花は1週間ほど遅れていましたが、オックスフ

ード・エリート、モンテカルロなど早咲きの品種が見頃を迎え、来場者は赤や黄色など色とりどりに咲きそろうチューリップを楽しんでいました。

また、会場では、リンゴの研究成果等のパネル展示が行われたほか、教員らによるチューリップやリンゴの研究に関する講演会が行われ、多くの来場者が耳を傾けていました。藤崎農場産のリンゴやリンゴジャム、金木農場産の米の販売も行われ、お目当ての品を買い求めようとする来場者でにぎわっていました。



色とりどりのチューリップでにぎわうピーターバン・チューリップ園



教員らによる研究に関する発表

弘前大学資料館 企画展「あの地震からX年 —記録された地震から学ぶ—」

5月16日(木)から8月8日(木)まで、弘前大学資料館 企画展「あの地震からX年 —記録された地震から学ぶ—」を開催しました。

東日本大震災が発生し3年目を迎えた今年は、1923年の関東大震災から90年、1968年の十勝沖地震から45年、1983年の日本海中部地震から30年という節目の年となりました。

企画展では、これらの地震及び災害がどのように記録されてきたかを紹介しました。

地震の記録は、大地震の断層の形状や断層がずれ動く過程の推定、さらには断層周辺の地下構造等を調べる貴重なデータでした。

地震記録と被害に学ぶことで日本の防災力は向上してきましたが、災害に関する人の記憶は時とともに薄れ、また、学び忘れたこと

もあるかもしれません。その意味で、報告書等の記録も災害の様子を後世に残す大切な資料です。

今回の企画展では、私たちに大きな影響を及ぼした地震及び災害について忘れないよう、そして間違った認識をしないよう重要な意味を持つ企画展となりました。



企画展の様子



「被ばく医療プロフェッショナル育成計画」平成25年度開講式

5月24日（金）、文部科学省「社会システム改革と研究開発の一体的推進」事業 地域再生人材創出拠点の形成プログラム「被ばく医療プロフェッショナル育成計画」の開講式を弘前市内のホテルで挙行了しました。

同事業は、原子力関連施設が数多く存在する地域の背景に青森県の地域再生計画に基づき、本学と青森県及び原子力事業者が

連携した人材育成です。

開講式では、佐藤学長の式辞、三村青森県知事（江浪青森県健康福祉部長代読）の挨拶に続き、弘前大学医学部附属病院放射線部勤務 成田将崇さんが受講生を代表して挨拶を行いました。

開講式に引き続き、鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科人間環境学講座疫学・予

防医学分野教授 秋葉澄伯先生を講師に迎え、「放射線研究と社会」と題した特別講演会を開催しました。

また、特別講演会終了後、受講生・授業担当者・事業関係者を交えた情報交換会が開催され、活発な意見・情報交換が行われました。



受講生代表による挨拶



秋葉澄伯先生による特別講演会の様子

「イノベーションネットアワード2013文部科学大臣賞」受賞

本学は、プロテオグリカンの研究及び事業化に係る「未利用資源活用型ヘルス&ビューティ産業クラスター創生支援プログラム」の取り組みにより、「イノベーションネットアワード2013文部科学大臣賞」を受賞することとなり、6月21日（金）TEPIA（東京都）で行われた表彰式において、（地独）青森県産業技術センター及びひろさき産学官連携フォーラムとともに表彰されました。

イノベーションネットアワードは、新事業・新産業創出を目的として、地域特性に応じた多様な地域産業支援プログラムを実践している優れた取り組みを積極的に評価し、さらなる地域産業振興・活性化を目指すもので、

（財）日本立地センター及び全国イノベーション推進機関ネットワークが実施しています。今回は全国の大学・金融機関等からの34件の応募の中から、8件の最終プレゼンテーションを経て、このたび本学は、「地域産業支援プログラム」表彰において、地域貢献のための産学官連携の取り組みのうち、最も優秀な取り組みとして、新設された文部科学大臣賞を受賞しました。

表彰式当日は、（地独）青森県産業技術センター総括研究管理員、ひろさき産学官連携フォーラム会長とともに登壇した本学の

代表の加藤理事（研究担当）・副学長に、記念の盾が贈呈されました。表彰に続いて、文部科学省科学技術・学術政策局長からの祝辞、全国イノベーション推進機関ネットワーク会長による記念講演及び各受賞者による講演がありました。

本学では、これまで主に廃棄処分されていたサケの鼻軟骨から、高純度のプロテオグリカン（保湿性及び抗炎症作用等の多彩な機能を持つ糖たんぱく質の一種）を低コストで精製する技術が開発され、文部科学省の産学官連携促進事業、地域イノベーション戦略支援プログラムの支援を得て、研究が継続されてきました。その研究成果を基に、（地独）青森県産業技術センター、ひろ

さき産学官連携フォーラム等との連携により、食品・化粧品等の多様な分野において、地域で順調に商品化されたことが、「幅広く実践的であり、雇用創出効果が期待でき、他の地域のモデルケースとして高く評価されるとともに、国が力を入れているライフサイエンス分野における大きな発展が期待できる」として、粘り強い活動が功を奏したとの講評をいただきました。

また、この受賞について、6月24日（月）には、（地独）青森県産業技術センター理事長、ひろさき産学官連携フォーラム会長とともに、加藤理事（研究担当）・副学長が、青森県知事を表敬訪問し、報告を行いました。



表彰授与



科学技術・学術政策局長の祝辞

平成25年度 弘前大学学生ボランティア活動助成団体採択書交付式

本学では、学内外でボランティア活動を実施している学生団体への活動助成費採択書交付式を、6月24日(月)事務局2階 特別会議室で行いました。

交付式では、佐藤学長から今年度申請のあった8団体の各代表者1人ひとりに、活動助成費採択書が手渡されました。

交付式に続いて懇談会が行われ、普段から困っていることや大学に応援してほしいことなどを中心に、各団体代表者による忌憚のない意見交換が行われ、今後の学生ボランティア活動支援体制の充実を図るためのヒントを得ることができました。

【学生ボランティア活動助成団体一覧】

- ・ 児童文化研究部KIDS ・ 僻地教育研究会
- ・ ひまわりサークル ・ SaBoTen(サボテン)
- ・ アダプテッドスポーツサークル爽～so～
- ・ さくらボランティア
- ・ 環境サークルわどわ
- ・ キャリアサポート研究会



活動助成費採択書交付の様子



学生ボランティア団体の各代表(後列)、佐藤学長(前列中央)、中根理事(前列右)、伊藤学務部長(前列左)

福島県浪江町仮役場に「復興支援室」を設置

7月1日(月)、福島県浪江町の仮役場(福島県二本松市)に「弘前大学浪江町復興支援室」を設置し、同役場にて開所式を開催しました。本学は平成23年3月に発生した東京電力福島第一原子力発電所事故を受け、全住民が福島県内外での避難生活を余儀なくされている福島県浪江町と同年9月に連携協定を締結し、浪江町の再生・復興のために様々な支援活動を展開しています。

開所式には、本学から佐藤学長、柏倉被ばく医療総合研究所長ら、浪江町からは馬場町長ら関係者が出席し、当室の開所を祝いました。今回の復興支援室設置により、本学と浪江町との連絡や調整が更にスムーズに

行えることが期待され、この復興支援室を支援活動の窓口として、新たに「放射線の正

しい知識を伝えられる人材育成」等の事業も計画されています。



浪江町仮役場2階に設置される「復興支援室」看板



開所式で挨拶する佐藤学長

医学部附属病院 ICU増床竣工式

本学医学部附属病院で進められていたICUの増床工事が終わり、8月1日(木)から稼働するのを前に、7月22日(月)、ICU増床竣工式が行われました。

附属病院大会議室で行われた竣工式では、はじめに藤附属病院長が「ICUが8床から16床へ増床することにより、高度救命救急センターが三次救急医療機能を十分に果たせるよう、後方支援ベッドの役割の一層の強化とともに術後患者の集中管理を担当することで、病棟スタッフの負担軽減が図ることが可能となります。総事業費の半分を青森県の補助金よりいただき、ご配慮いただいた関係各位に深く感謝します。」と式辞を述べました。

そして、佐藤学長からの挨拶に続き、三村

青森県知事より祝辞(代読:山中青森県健康福祉部医師確保対策監)をいただいた後、廣田集中治療部長がICUの概要説明を行い竣工式は終了しました。

その後、増床したICU病棟が報道陣及び関係者に公開され、詳細な説明が行われました。



ICU増床竣工式の様子



増床されたICUの様子

平成25年度弘前大学「科学者発見プロジェクト」テーマ賞表彰式 及び第5回共同研究体験発表会

8月2日（金）、弘前大学創立60周年記念会館コラボ弘大において、平成25年度「科学者発見プロジェクト」テーマ賞の表彰式を開催しました。本事業は、日常のささいな「疑問や興味、アイデア等」を青森県内の小・中・高の児童・生徒から広く募集し、その提案に基づいた研究テーマを同大研究者と共に体験する双方向的な試みであり、弘前大学の地域貢献の一環として2008年度より行われています。

発展性、意外性、独自性に優れた研究テーマとして、八戸市立松館小学校の「しあわせプロジェクト4～よつ葉ができるしくみを明らかにし、よつ葉を増やすチャレンジ～」をはじめ、9件（養護学校1件、小学校2件、中学校4件、高校2件）が「テーマ賞」に採択されました。表彰式では、佐

藤学長の挨拶、加藤理事（研究担当）の講評の後、学校関係者及び保護者などが見守るなか受賞者を代表して、八戸市立松館小学校6年 松沢 紗希さんから、受賞へのお礼の言葉と今後の共同研究に対する決意の言葉がありました。

引き続き、第5回共同研究体験発表会が行われ、昨年度共同研究を実施した「豆乳

から、ゆばや豆腐ができるのは、なぜだろう」（弘前大学教育学部附属小学校）等5件の研究成果の発表が行われました。その充実した発表内容は未来の科学者を期待させるものであり、共同研究体験を通じて「関心を探求するプロセス」を研究者と共に体験することで、大学をより身近に感じてもらうよい機会となりました。



受賞者による代表の挨拶



表彰状授与の様子

弘前大学“ねぶたまつり”に連続50回目の出陣

津軽の風物詩「弘前ねぶたまつり」が8月1日から7日間行われ、弘前大学は8月1日、5日、6日の3夜の合同運行に出陣しました。今年、昭和39年に初めて「弘前ねぶたまつり」に参加して以来、連続50年目の節目の出陣となりました。

運行には、佐藤学長、神田理事、江羅理事をはじめ、各理事や各部局長を先頭に教職員、学生、留学生、附属学校園の生徒、近隣町会の子供たちなど3日間で延べ約1,000人が参加し、「ヤーヤドー」の掛け声も勇ましく、夕暮れから約2時間余り市内を練り歩きました。小型ねぶたや灯籠を従えた極彩色の鏡絵「水滸伝 一丈青奮戦の図」、見送り絵「一丈青」を描いた高さ約7mの勇壮なねぶたは、沿道の市民・観光客から大喝采を浴びました。

また、ねぶたまつり初日の8月1日には、医学部附属病院正面駐車場内において、恒例となっている小児科入院中の子供達や保護者、医師、看護師及び事務職員等による「小型ねぶた」運行が行われ、太鼓と笛の音に合わせて、子供達は「ヤーヤドー」と元気の掛け声を響かせ、津軽の短い夏の夜のひとときを楽しみました。

さらに、岩手大学と弘前大学の国立大学間の連携、協力を強力に推進するため、平成15年から大学相互の祭（盛岡さんさ踊り、弘前ねぶたまつり）交流を行い、地域文化の相互理解を図っており、8月5日は、岩手大学の小川理事らが佐藤学長とともに、弘前大学の「ねぶた」の先導を務め、大学間の連携をアピールしました。



「水滸伝 一丈青奮戦の図」を題材とした大型ねぶた



勇壮な弘前大学ねぶた



弘前大学教育に関する表彰

本学では、前年度において優秀な成績を修めた学生及び教育に関して優れた業績を上げた教員を対象として、8月1日(木)に事務局大会議室で表彰式を実施しました。

今回の受賞者は、各学部等から推薦された学生26名、教員7名で、表彰式には、中根理事(教育担当)及び各学部長・研究科長も出席し、佐藤学長から一人ひとりに表彰状と副賞が贈呈されました。

これを受けて、学生を代表して理工学部2年の古川千恵子さんから、教員を代表して医学研究科の黒田直人教授から謝辞が述べられ、表彰式は和やかなうちに終了しました。

平成25年度 弘前大学成績優秀学生被表彰者一覧

【学部学生】

人文学部 経済経営課程	2年 藤田 雄大
人文学部 人間文化課程	3年 神 冴香
人文学部 経済経営課程	4年 長尾 真澄
教育学部 学校教育教員養成課程	2年 工藤 真理
教育学部 学校教育教員養成課程	3年 神 怜奈
教育学部 生涯教育課程	4年 高森 えりか
医学部 医学科	2年 佐々木 花恵
医学部 医学科	3年 村上 圭秀
医学部 医学科	4年 矢野 瑞季
医学部 医学科	5年 松崎 豊
医学部 医学科	6年 丸山 尊
医学部 保健学科 検査技術科学専攻	2年 相馬 祐希
医学部 保健学科 理学療法専攻	3年 小園 里穂
医学部 保健学科 作業療法専攻	4年 武藤 祐子

理工学部 物質創成化学科	2年 古川 千恵子
理工学部 物理科学科	3年 櫻庭 涉吾
理工学部 知能機械工学科	4年 佐々木 航一朗
農学生命科学部 生物資源学科	2年 小館 めい
農学生命科学部 生物資源学科	3年 小泉 光可
農学生命科学部 生物資源学科	4年 荒尾 紗代

【大学院学生】

人文社会科学研究科 文化科学専攻	2年 岡部 友明
教育学研究科 養護教育専攻	2年 珍田 洋子
医学研究科 医科学専攻	2年 早狩 亮
保健学研究科 保健学専攻	2年 木村 素子
理工学研究科 理工学専攻	2年 久野木 梓織
農学生命科学研究科 農学生命科学専攻	2年 相良 百合子

平成25年度 弘前大学における教育に関して優れた業績を上げた教員の被表彰者一覧

【学部長・研究科長推薦】

人文学部	文化財論講座 上條 信彦 准教授
教育学部	学校教育講座 福島 裕敏 准教授
医学研究科	法医学講座 黒田 直人 教授
保健学研究科	医療生命科学領域 祐川 幸一 准教授
理工学研究科	浅田 秀樹 准教授
農学生命科学部	生物学科 小林 一也 准教授

【学内共同教育研究施設長・医学部附属病院長等推薦】

医学部附属病院	輸血部 玉井 佳子 講師
---------	-----------------





弘前大学表彰

本学では、教育研究活動、課外活動の振興、医療活動、教育研究支援活動、大学改革の推進、社会活動、職員の模範となるような活動等において顕著な功績があった本学職員や、本学との産学連携、社会連携又は教育もしくは文化活動において顕著な功績があった学外の方を「弘前大学表彰」として表彰しています。

今回は、顕著な功績があったと認められた学内の1団体及び学外の1名の方が「弘前大学表彰」により表彰されることになり、5月31日(金)に事務局大会議室において表彰式が執り行われ、佐藤学長から表彰者に対し表彰状及び記念品が授与されました。

表彰を受けられた方は次のとおりです。

【学内・団体】

「医用システム開発マイスター養成塾」実行委員会

本学の医工連携を基盤として医用システム関連の新産業創出を目指して平成20年度から5年間にわたり先導的な人材育成を行った。このことは、医用システムの開発を先導する地域の技術者の育成に多大な貢献があったものであり、その功績が顕著であると認められたもの。

【学外・個人】

庄司 輝昭氏

特定営利活動法人コミュニティネットワークキャストのスタッフとして長きにわたりFM放送局アップルウェブにおいて本学職員による研究内容を市民に広く分かりやすく紹介してきた。このことは本学における社会連携の振興において顕著な功績であると認められたもの。



名誉教授称号授与式

平成25年3月31日限りで定年退職され、教育上又は学術上特に功績のあった10名の本学元教授に「弘前大学名誉教授」の称号が授与されました。これにより、平成25年4月1日現在における本学名誉教授の称号を授与された方は279名となりました。

名誉教授称号授与式は、5月31日(金)午前11時30分から関係学部長、研究科長等列席の下、事務局大会議室において執り行われ、佐藤学長から一人ひとりに辞令書が交付されました。

名誉教授の称号を授与された方は次のとおりです。

船 木 洋 一 (人文学部)	匂 坂 康 男 (理工学研究科)
四 宮 俊 之 (人文学部)	須 藤 新 一 (理工学研究科)
肥田野 豊 (教育学部)	清 水 俊 夫 (理工学研究科)
豊 嶋 秋 彦 (教育学部)	吉 岡 良 雄 (理工学研究科)
中 村 光 男 (保健学研究科)	宮 入 一 夫 (農学生命科学部)



弘前大学にこの春、開講された 「地域がん疫学講座」が目指すもの。

平均寿命が 全国最下位県の決意

青森県は平均寿命が男女ともに全国最下位で、がんが死因のトップ。発表された人口10万人あたりのがん死亡率では、青森県が男性662.4人・女性304.3人と最も高く全国で最も低かった長野県の男性477.3人・女性248.8人と比較すると、特に男性は1.4倍も高く2000年の調査から3回連続のワースト1であることが厚生労働



今年2月、青森県の平均寿命が男女とも全都道府県の中で最下位という、衝撃的な結果が厚生労働省から発表されました。中でも死亡原因の約3分の1を占めるがんは、これも死亡率が全国1位という不名誉な結果を突きつけられています。この事実を深刻に受けとめた県は弘前大学と強力なタッグを組み、がん撲滅に向けた取り組みをスタートさせました。

省のまとめでわかりました。

一方、弘前大学大学院医学研究科では、多くの基礎医学系講座・臨床医学系講座でがんの研究を、医学部附属病院ではほとんどの診療科でがん臨床を行っているうえ、「地域がん診療連携拠点病院」に指定されるなど、教育・研究以外でも「がんにおける地域医療の拠点」として大きな役割を担っています。とはいえ、がん罹患や死亡のデータが少ないことから、青森県に特化した「がん疫学研究」や「がん対策の提言」が難しかったのが現状で、包括的ながん対策を立てることが急務とされてきました。

こうした現状を受け弘前大学では、青森県の今年度新事業予算で設置する寄附講座として、医学研究科に「地域がん疫学講座」を開講。全県を対象にがんの詳細なデータを集積し、青森県に多いがんの特性や原因を疫学的に解析。同時に人材を育成しながら、データに基づいて効果的ながん対策を提言、学術的な立場から具体的な実施方法を示すことで、全国最下位県からの脱却を目指そうとしています。

この講座を運営するのは、中路医学研究科長以下3人の専任教員を含めた5人のスタッフ。中路医学研究科長は「ずっと“短命県返上”のため、県と大学で真の連携ができないだろうかと考えていました。三村県知事は地域医療に造詣が深い方ですから、診療と研究を行うがんセンターのような機能を引き受けられるのは大学しかない、熱意を持って申し入れてきました。これは全国でも初めての英断だったと思います。学と官は案外交流がない。それが“がん対策”という互いの目的が一致したことで、遅々として進まなかったことが一挙に動き出すのではないかと期待しています」と熱く語ります。

地域がん疫学講座に できること

がんにならないためにやるべきことは「たばこをすわない」「太らない」「お酒を飲み過ぎない」、がんの早期発見のため、より多くのがん死亡を防ぐには「検診を受ける」「病院にはちゃんと行く」など、ある程度はわかっています。そこに青森県独自のデー

1979年、弘前大学医学部卒業。1983年、同大学院医学研究科(公衆衛生学)修了。医学博士。同大学医学部内科学第一講座入局。1989年から、同大学医学部衛生学講座助手、同講師、同助教授、同教授を経て、2005年から社会医学講座教授。2012年から現職。専門は癌の疫学・地域保健・公衆栄養・産業保健・スポーツ医学。青森県寿命アップ会議委員長。青森県地域がん登録委員会委員長。2013年、「Dr中路が語る あおもり県民の健康」を刊行、県民の健康啓発に一石を投じる。



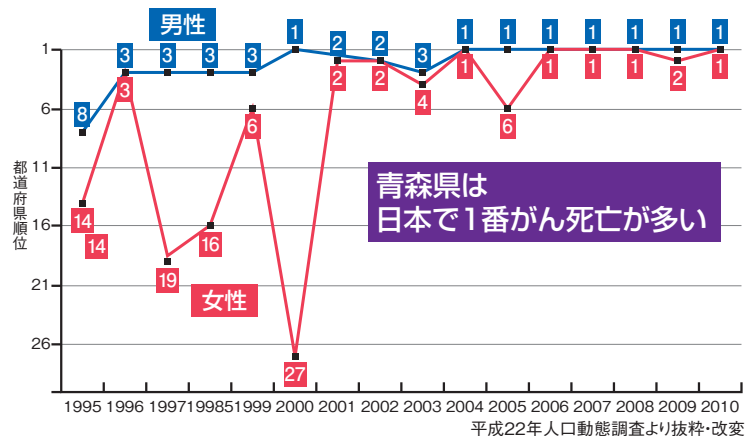
弘前大学大学院 医学研究科
地域がん疫学講座 講師
松坂 方士(まつざか まさし)

2002年、弘前大学医学部医学科卒業。2004年、同大学院医学研究科入学。2006年より、同大学医学部社会医学講座助手、同大学院医学研究科社会医学講座助教。2008年、同大学院医学研究科修了。博士(医学)。2010年から1年間、ロンドン大学キングスカレッジ医学部客員研究員。2012年、弘前大学大学院医学研究科 医学医療情報学講座助教。2013年から現職。青森県地域がん登録委員会委員。

タを示すことができたら未然にがんを防ぐことができるかもしれません。そのために弘前大学がやるべきことは「がん登録」の充実です。「がん登録」が始まったのは平成元年と青森県はスタートこそ早かったものの、その後20年以上も惨憺たる状態が続いてきました。「青森県はがんの死亡率が一番高いのですが、がんの発生率が高いのか、病院へ行くのが遅いのか、医療レベルが低いのか、今のところわかりません。しかし、集められたデータから検診を受けた人の死亡率が明らかに低いことがわかれば、検診を受けようということになるでしょう」と中路医学研究科長。

「がん登録」の内容は、診断日・検査の種類・診断時の進行度・治療内容など全部で25項目、氏名などを除けば実際には20項目ほどですが、現場で患者さんと接する医師の負担が想像以上に大きいことから、思うように進まないのが現状です。そこで登録率を上げるために、医師以外の人が登録できるような体制づくりも進め

■青森県の都道府県別がん死亡率順位の推移



■青森県の都道府県別がん死亡率順位(種類別)

	男性	女性
食道がん	22	31
胃がん	3	25
大腸がん	2	1
肝臓がん	13	37
胆のう・胆管がん	1	2
すい臓がん	1	1
肺がん	1	8
乳がん		5
子宮がん		18
卵巣がん		2

平成22年人口動態調査より抜粋・改変

ていかなければなりません。また、がん登録には都道府県単位の「地域がん登録」のほかに、医療機関単位の「院内がん登録」があり、青森県では、すでに大学病院のほかに10病ほどの総合病院で実施されています。よく言う「がんの5年生存率」ですが、データがない病院単体では出せませんでした。しかし「がん登録」によってそれが可能となり、ひいては医療レベルを引き上げることにもつながっていきます。

弘前大学に 求められているもの

「地域がん疫学講座」の開設にあたっては、がん登録の世界的権威として知られるイギリスのキングスカレッジで学び、医学部附属病院で院内がん登録室の副室長を務める松坂講師がキーマンとなっています。「集まったデータから県内におけるがんの地域差を見つけることが大きな目標です。地域差があるとしたら、その原因を探り対策を立てる。最終的には県民に還元できる研究を目指していきます」と松坂講師。津軽と南部がある青森県はそれぞれ気候が違います。全国で唯一、太平洋と日本海に面し文化も違う。がん

は生活習慣の影響が大きいことから、地域差は顕著に表れると考えられます。

日頃は患者さんの診療ばかりが目じられますが、それを支えるのは正確なデータ。集められたデータによっていろいろな研究が大きく膨らんでいく可能性を秘めています。「がん登録には終わりがありません。地道で大変な道のりかもしれませんが、この研究が本学の使命だと私たちは考えています。県民の皆さんには、大学という機関の本質を理解していただき、支援の目を持って見守っていただければ願っています」と、中路医学研究科長はメッセージを送ります。寄附講座に与えられた2年間で、「がん登録」におけるデータの精度を上げ次につなげるこそが、期待とともに弘前大学に強く求められています。



がん登録の作業風景

弘前大学出版会からのご案内

日英対訳 津軽の藍 Tsugaru Indigo

北原晴男 監修

ISBN 978-4-902774-97-9

発行 2012年11月18日

A5判・159頁・並製

定価 1,890円(本体1,800円)



グローバルイゼーションの中のアジア —新しい分析課題の提示—

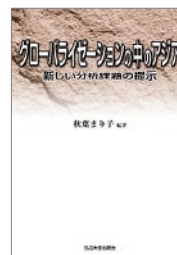
秋葉まり子 編著

ISBN 978-4-902774-96-2

発行 2013年2月20日

A5判・289頁・上製

定価 3,360円(本体3,200円)



十年間の歩み

—弘前大学第十二代学長 遠藤正彦原稿集—

弘前大学学長秘書室 編

ISBN 978-4-902774-99-3

発行 2013年3月28日

A5判・350頁・上製

定価 4,200円(本体4,000円)



太宰へのまなざし

—文学・語学・教育—

弘前大学教育学部国語講座 編

ISBN 978-4-907192-00-6

発行 2013年3月12日

四六判・281頁・上製

定価 1,680円(本体1,600円)



太宰治自筆ノート複製セット

弘前大学附属図書館 編

ISBN 978-4-907192-01-3

発行 2013年3月29日

A5変型判・英語168頁、修身128頁、解説8頁 函入

定価 12,600円(本体12,000円)



弘大ブックレット No.10 津軽から発信! 国際緊急医療援助に生きる 朝日茂樹 医師のJDR 活動編

弘前大学人文学部柑本英雄ゼミブックレット編集委員会
(山田卓哉・村井未可子・山下真奈) 編

監修: 柑本英雄・佐藤菜穂子・近藤麻衣

ISBN 978-4-907192-04-4

発行 2013年7月2日

A5判・82頁・並製 定価 630円(本体600円)



弘前大学LINE@始めました!

弘前大学では、LINE@を始めました。弘前大学のイベント情報など耳寄りな情報をいち早くお届けしますので、ぜひ友だち追加してみてください!

友だち追加の仕方

■QRコードで追加

メニューの「友だち追加」で「QRコード」を選択して、こちらのQRコードを読み取ると、友だち追加できます。

■検索して追加

メニューの「友だち追加」で「ID検索」を選択して、「@hirosaki-u」と入力して検索すると、友だち追加できます。

※Facebook, Twitterページもありますので、チェックしてみてください!



弘前大学メールマガジン 「ひろだいメルマガ」会員募集のお知らせ

弘前大学メールマガジン「ひろだいメルマガ」では、弘前大学への理解を深めてもらうことを目的として、最新の情報をメールで配信しています。

登録は簡単に出来ますので、配信を希望される方は、下記URLより是非ご登録ください。購読は無料です。(登録はパソコンのアドレスでお願いします。)

「弘前大学教員紹介シリーズ」

弘前大学に在籍する先生の、研究内容はもちろん、趣味など、普段の授業では聞く事が出来ない情報も紹介します。

「今、この部活動・サークルがおもしろい」

学生記者がイチオシの部活動やサークルの活動内容などを詳しく紹介します。

「講演会・セミナー等のお知らせ」

予定されている講演会やセミナー等のスケジュールを紹介します。

詳細は、下記URLをご確認ください。



ひろだいメルマガ <http://db.jm.hirosaki-u.ac.jp/magazine/>

ひろだい vol.21

2013年9月発行

弘前大学総務部広報・国際課

表紙: MOS世界学生大会へ出場した弘前大学人文学部の辰巳真広さん

「ひろだい」に関するご意見・感想をお聞かせください。

「ひろだい」はWebでもご覧いただけます。

下記URLからお進みください。



〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地

Tel.0172-39-3012 Fax.0172-39-3498

E-mail: jm3012@cc.hirosaki-u.ac.jp

<http://www.hirosaki-u.ac.jp>

